

## 開催趣旨

### 水辺の自然再生共同シンポジウム

実行委員長 高橋清孝

#### 1 経緯

シナイモツゴ郷の会が法人化した 2004 年以来、多くの方々のご協力を得ながら、水辺の自然再生共同シンポジウムを東京と宮城県大崎市の会場で開催してきました。自然再生活動に関連する情報と意見交換が主な目的で、内容は活動紹介、新技術の紹介、研究報告、制度や法律の紹介など多岐にわたっています。この中から先駆的な報告をとりまとめ、5 年に一冊のペースで新刊本も発刊しています。

2020～2022 年開催のシンポジウムはコロナ新型コロナウイルス対策のため、WEB 開催となりました。3 年間の WEB シンポジウムでは、各年、3 週間のシンポジウム開催期間に YouTube で講演動画を配信し、全国の多様な方々に視聴していただくことができました。

今回、4 年ぶりの会場開催が実現し、久々に多くの方々とお会いし、直接、情報・意見交換できることになりました。旧品井沼周辺ため池群が「大崎耕土」世界農業遺産の一翼を担っていることから、大崎市と連携してため池群の自然再生を進めています。今回は、大崎市のご厚意により、本シンポジウムの共同開催、および市役所新庁舎会議室での開催が実現しました。大崎市長はじめ多くの関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

#### 2 テーマについて

本シンポジウムでは水辺の「激変する水辺の原風景」と「アメリカザリガニの持続的な防除活動」をメインテーマとして取り上げ、現状と対策について語り合います。

##### (1) 激変した水辺の原風景

日本の人口は 20 世紀の 100 年間に約 3 倍に急増しました。この間、水辺の原風景は農地整備を含む開発、農薬使用、外来種の侵入などにより激変し、今後は離農が拡大しさらに拍車がかかる恐れがあります。第一部でご講演いただいた内容を基に、自然と共生した 70～100 年前の原風景を原点として、現在の変貌した姿に至った過程や問題点を共有できればと思います。今後は、これらの知見を参考にして現場の活動を継続しながら、残すべき自然を維持し復元するための手法や体制を検討し、提言していきたいと考えています。

##### (2) 自然再生の取り組み紹介ポスターセッションと実物展示コーナーの設置

当会ははじめ多くの団体・機関が持続可能な自然再生活動を実現するため、効率化や有効活用と取り組んでいます。取り組み事例を第 2 部ポスターセッションで紹介し、さらに、多くの方々に自然再生ツールの実物を見ていただきながら、直接、質疑応答

し語り合いたいと考えています。

### (3) 水辺の侵略的外来種、特にアメリカザリガニ対策

第3部では、アメリカザリガニの対策を中心に発表し議論します。10～20年前はブラックバス対策が主課題でしたが、近年は多くの外来種の侵入と被害が報告され、多様な対策が求められています。水中では、複数の外来種が相互に激しく競争しながら生育しています。今や、単一魚種の防除では十分な成果を上げることができず、複数種を対象とした総合的防除を検討する段階に入っていると考えられます。主題のアメリカザリガニについては、6月に条件付特定外来生物に指定され、各地で防除活動が始動しました。各地で展開されている防除活動を支援するための情報提供を目指したいと考えています。

### (4) 総合討論

防除の問題点を解決し効果的な対策を進に意見交換します。アメリカザリガニ防除活動を継続しているため池では下写真のように様々な生き物がよみがえっています。全国12万個のため池のほんの一部でも、適切な防除が行われれば、さらに多くの生き物を復元できます。各地で活動が拡大できるように、積極的な意見交換の場にしりたいと考えています。



里山ため池でアメリカザリガニ退治後よみがえった生き物たち

- ①二枚貝(タガイ) ②ゼニタナゴ ③シナイモツゴ ④アカガエル  
⑤ヌカエビ ⑥エグリトビケラ ⑦トンボ類ヤゴ ⑧ミヤケミズムシ

### 3 シンポジウム終了後の対応について

後日、本シンポジウムの講演動画を、講師の了解を得られたものに限定されますが、当会 URL と YouTube に掲載予定です。是非、ご覧いただければと思います。

自然再生活動に関するご質問とご相談は、下記へお願いします。

メール [yy0910@ktj.biglobe.ne.jp](mailto:yy0910@ktj.biglobe.ne.jp) 電話 090-1377-2844